

---

# Lived Load

Three PEACE

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Lived Load

### 【Zコード】

N4596D

### 【作者名】

Three PEACE

### 【あらすじ】

人つて強い、人つて弱い、それが人、嵐の生きた道は、強かつた  
よ

(前書き)

最後まで読んでください

お前が、天国に行つても「4年になる、お前が「生きた道」はずつと消えない、でも、俺、寂しいよ、俺、苦しいよ、俺……会いてえよ。

それは今から5年前になる、俺らは高校生だった

「嵐、お前は強いよ、名前どおりにだよ、お前は強いよ……」

嵐

「オカア、なんで、俺の名前は嵐なん?」

オカア

「自然の力つてどんなものにも負けないでしょ、自然の力つてすごく強いでしょ。嵐も「嵐」みたいに強くなつてほしかったからよ」

嵐

「ふーん……」

嵐は強がりでバカだった。毎日楽しく過ごしていたのに、あの病気は、嵐をえらんだ。

「がん」瘋せ一六歳の若さで「がん」になつた、でも瘋せの五ヶ月間精一杯生きた。

「がん」になつて一週間

「まさ（俺）、『めんな、見舞いなんかに来てくれて、すぐなおして、早く学校に行くから』

「おひくりな、早く学校来こよー。じやあな」

「ウサギ」

俺はこの時はまだ、嵐の病気を知らなかつた。

嵐の母

「おや君、ちよつと話しがあるの、風の病気の事で」

九九

# 嵐の母

「風……〔がん〕なの、もつながくないの」  
また

「え……嵐が死ぬ？」

俺はあの時はまだ理解出来ていなかつた、「がん」の怖さをしらなかつた。

嵐が俺に自分は「がん」と教えてくれたのは、嵐が死ぬ一ヶ月前だつた。嵐はずっと笑つていた、ずっと笑つていた…。

嵐  
「「がん」なんだよーはは、笑つけりやつよな…、マジひかわ…」

嵐は無理をしていたと思つ、でもそれすらもわからなごぐらい、明るかつた、嵐は強かつた…。

5

嵐  
「まさ、泣くなよ、俺は泣いてないぞ、俺に涙を見せんなー涙は嫌いだ、涙は、悲しいから……」  
まさ  
「じめんな、じめん、」

嵐  
「俺、絶対死なねえから、心配すんな」  
まさ  
「死んだらゆるさねえぞー！」

嵐  
「ねー！」

嵐の病気はどんどん悪くなつていった、嵐が死ぬ一ヶ月前の事だ、  
嵐が初めて俺にわがままを言つた。

嵐

「まさ、頼みがある」

まさ

「なに?」

嵐

「後もう一回でいいから、海が見たい」

まさ

「…………わかった、絶対連れて行つてやるー。」

俺は泣きそうになつた、最初で最後のわがままが海が見たいだなんて、もつとわがまま言えよ、もつと頼れよ、もつと弱くなれよ……、俺は病室を出てから泣いた、涙がとまらなかつた……。そして三日後海に行つた。嵐は子供のようにはしゃいだ。そしてその日を俺は絶対に忘れない、だつて嵐が初めて弱くなつた日だから……。

嵐

「…………まさ、」

まさ

「なに?」

嵐

「俺生きたい、生きてえよ、なあまさ、生きたいよ死にたくねえよ、なんで、なんで「がん」は俺を選んだんだよ、なんでだよ、死にたくないよ……生きたいよ

まさ

「嵐……」

嵐が初めて俺に泣きついた、嵐が初めて泣いた、嵐が初めて弱くなつた……。

でも次の日には強い嵐に戻つていた、それからずっと嵐は笑つていた、  
嵐が死ぬ三日前、俺は病室に見舞えにいつた、病室の前に行くと、  
病室の中から嵐の泣き叫ぶ声が聞こえた。嵐はずつとお母さんに謝  
つていた。

嵐

「オカア、『めんな、強くなくて、名前どおりじゃなくて、オカア  
弱くて』めんな」

母

「もう言わないで、嵐は強いよ、嵐は『嵐』になれたよ、強い『嵐  
』になれたよ、嵐は強いよ」

嵐

「オカア、『めん、『めんな』

俺は泣いた、病室の前で泣いた、嵐の「『めんな』が胸に響いて、  
胸が痛かった。

次の日嵐にこんな事を聞かれた

嵐

「俺の『生きた道』つてちゃんとあるのかなあ、ちゃんと……道、  
あるかなあ」

まさ

「あるひあ、嵐が笑えば、道は強くなつていい、『嵐』のようにな

そして嵐は天国にいった。最後はずつと、笑つていた。  
嵐の「生きた道」は強くて「嵐」のように強かつた。

嵐、俺はいつも泣いてたよな、泣き虫で」「めんな、嵐、俺全然強く  
なれなによ、俺にはまだ自分の「生きた道」が見えないよ、俺の道  
は強いか?俺、「生きた道」あるかなあ、嵐、会いたいよ。  
それから、俺はあの海にむかつた、そして海上には

嵐が居た。

嵐

「よつー・#あや」

あや

「おつ……」

嵐

「ちやんと笑ひてるか、泣いてないかあ、涙は嫌いだぞ」

あや

「わかつてると、嵐はびづくよ。」

嵐

「俺は、「生きた道」を誇りに思つてむけりつづき上手へしゃつて

あや

「あるよ、ちゃんとまつやす」

嵐

「やあ、」

「やあ、「生きた道」を、俺は強くしたいよ」

あや

嵐

「なら、…………」

ぱつっ

俺は砂浜で寝ていた、夢だった、俺はわからなかつた、強くなりたい、でも俺は前に進む、前に進み続けて、いつか答えを自分で見つける。

「人は強い」

でも本当は、

「人は弱い」

だから、強くするんだ、

自分の

「生きた道」を

(後書き)

最後まで読んでくれてありがとうございます。  
お願いします。へたですみません

またよろしく

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4596d/>

---

Lived Load

2010年12月30日02時36分発行